

株式会社今治. 夢スポーツ

〒794-0084 愛媛県今治市延喜甲604-1  
TEL:0899-31-8701 / FAX:0898-31-8702  
EMAIL:contact@fcimabari.com

Bari Challenge University



# 2019 REPORT



# 次世代の挑戦、本気で応援

～社会変革を今治から～

## 地域課題解決型ワークショッププログラム

### 「Bari Challenge University」

Bari Challenge University(BCU)は、FC今治アドバイザーボード(当社代表取締役会長岡田武史のほか、青野慶久氏(サイボウズ株式会社/代表取締役社長)や、藤沢久美氏(シンクタンク・ソフィアバンク/代表)をはじめとする、総勢16名の「FC今治アドバイザーボード」が参画し、2016年より教育事業の活動の一環として開始した取り組みです。今年で4回目の開催を迎え、これまでに約300名が参加しています。本プログラムがきっかけとなり、起業や海外留学に挑戦するOB/OGが続々と生まれるなど、若者にとっての「志の原点」、そして当社にとっての「次世代のリーダーを生み出す拠点」となる取り組みです。



## 学長あいさつ



(株)今治、夢スポーツ代表取締役会長  
Bari Challenge University 学長

### 岡田 武史

「これだけのメンバーが集まったら、かなりインパクトのあることができるのでは?」

2014年の冬に東京駅ステーションホテルのレストランに集まったアドバイザーボードのメンバーからの声がかきかけでした。私がFC今治のオーナーになるにあたって、名前を貸して欲しいとアドバイザーになってもらったのですが、一度ぐらい会議をやらうということになり、みんな忙しい人達なのになんとほぼ全員の14名が集まってくれました。ありえない奇跡でした。そこから始まったのが、社会変革にチャレンジする若者を育てる目的で、私が学長、アドバイザーボードメンバーが

教授となって行うワークショップ、Bari Challenge Universityです。

最初は100人での2泊3日、翌年はOB会の開催、3年目は50人に規模縮小、そして4年目となる今年は、OBが中心での運営、25人での1週間のプログラム、オール今治の実行委員会形式からFC今治の事業への移行などと進む方向を模索しながらも続けてきました。

これもひとえに、今治の人たちだけではなくOBや多くの人たちの協力のおかげです。本当にありがとうございました。この第4回はOBの発案で3日間のフィールドワークを入れたプログラムにしました。運営が大変だったり色々問題も起きましたが、今まで以上に現実的に継続的に活動をしていく価値のある発表が多かったと思います。

毎年BCUを開催するたびに大変だけど絶対に続けなければならないと強く感じます。今回をしっかり振り返り、来年どういう形で行うかを決めBCUを進化させていきたいと思っています。そして、BCUの卒業生が社会変革リーダーとして世界で活躍してくれることを夢見ています。

最後に「また来年会いましょう」と元気に今治を後にされたアドバイザーボードメンバーの鈴木エドワードさんが、その数週間後に天国に旅立たれました。今を生きることの大切さを体現されていたエドワードさんのご冥福を心からお祈りします。

## BCU・OBによる運営組織

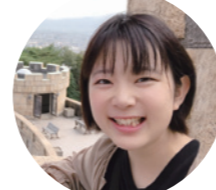


代表：高尾明香里  
1期生/Setouchi Fruit



副代表：越智航  
高知大学

2019年のBCUより、運営組織を一新。2016～2018年のBCUに参加したOBが、企画運営を担当することになりました。社会人から高校生まで、BCUを経験したOBだからこそ提案できる企画を提案し、実行しました。BCUを持続可能な取り組みとするための運営組織として、BCU内から人材を輩出するエコシステムを構築しました。



木村美里  
1期生/愛媛大学



小林穂乃香  
1期生/多摩美術大学



高橋貴大  
1期生/(株)電通



森實健太  
1期生/日本航空(株)



小笠梨奈  
2期生/(株)近畿日本ツーリスト中部



木原理沙  
2期生/愛媛大学



鈴木伸  
3期生/京都大学



野水愛  
3期生/高知大学



馬場優汰  
3期生/今治東中等教育学校

## BCU・OBからBCUに参加する皆さんへ

皆さんと同じ時代に生まれた私たち運営事務局メンバーの素直な想いです。平成生まれの私たちは、バブルがはじけると同時に生まれてきました。その瞬間から、テレビのニュースに、または大人たちとの会話の中で、刷り込みのように不安を煽られ続けてきました。まるで大変不幸な時代に生まれてきたかと錯覚する程に。「希望」と正反対の場所にいるような私たちは、現実の世界に対してこのように思います。

目を覆いたくなるような世界で、私たちは必死にもがいています。そして私たち以外にも、諦めずに生きる多くの仲間がいると信じています。私たちはBCUを通して、真剣に生きる若者と出会いたい。皆さんと共に、これからの時代を本気で作っていきたい。そんな想いで作り上げた、私たちのBCUです。どうか本気で挑んで頂けたらと思います。

私たちが最後まで本気で向き合っています。

デジタルイノベーションの襲来に、本気で打開策を見出そうとしない大人たち。あれだけ努力した就活後に見たのは、信じられないほどに旧態依然とした企業体質。まるで真剣に日本を創っていくとは思えない、国民よりも内輪の論理を優先する政治家たち。

## FC今治アドバイザーボード

企業理念およびミッションステートメントの実現、およびサッカー事業や今治地域のみにとどまらない社会への貢献を目的に「FC今治アドバイザーボード」を2015年に設立、外部有識者による深い知見と幅広い見識を経営に存分に活かす事に挑戦しています。FC今治アドバイザーボードは、Bari Challenge Universityにも参画しており、Bari Challenge University 2019には、以下のFC今治アドバイザーボードが参加しました。



サイネージ株式会社 代表取締役社長

青野 慶久

完全にリニューアルされました、2019年のBCU。大成功だったと思います。現地での活動量が増え、例年以上に実践的な、そして熱のこもったアイデアがたくさん生まれました。また、テーマの多くが、まさに現代のダイバーシティに関わるものであり、分断を生み出す社会構造に対してもチャレンジ精神を忘れることなく、社会を変革させていってください。私たちの世代も、みなさんを後押しできるように頑張っています。

今年のBCUは期間を1週間と長したこと、人数を絞った新しい試みだったが、予算面、準備面のご苦労もある中、良い試みになったと思う。まずはじっくりと地域の観察、地元住民との交流も深まったようだったこと、チーム感が出てきているように見受けられたこと、そして海外からのチームも参加してくれて多様性も深まったこと。今後さらにOBOGとの連帯も含めて、BCUで提案されたことが現実されていくことを強く期待しています。



株式会社FC 代表取締役副社長  
CFO, CISO

小泉 泰郎



東京大学教授

鈴木 寛

2019年夏もBCUが大盛況に終了して本当によかったです。まず、「愛が大事」という素晴らしいコメントをしていただき、大変、お元気にご参加されていたら嬉しい鈴木エドワードさんが、BCUの直後に、突然、ご逝去されました。本当に驚き、言葉がありませんが、心からご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

さて、今年のBCUは期間を長しました。その結果、参加者が、貴重な夏休みの一週間に使える学生に限定されました。このことはBCUの間口を狭めたというデメリットと、参加した学生がフィールドワークもしっかり行い、また、本当のチーム作りの難しさとすばらしさをひりひりと実感することをも可能にし、大変、中味の濃い学びを実現できるというメリットと、地元の人々にBCUに参加している学生の存在を認識してもらうというメリットをもたらしました。改めて、BCUが何を指すのかを、拠点としても、今治に集中してやっていくのか？周辺市町村をも視野に入れるのか？どこまで地元や関係者の皆様も含めて、今後の方針を決めていけばいいと思います。今回は、OBOGが中心となって主体的に企画・運営してくれました、彼ら彼女らの奮闘に、そして、いつも縁の下で支えていただいているFC今治のスタッフの皆様にも、心から敬意を表し、コメントとします。

BCUがめざすものは、その名の通り、全国で地域活性化のために困難な課題に挑戦する「チャレンジャー人材」の育成ですが、それは言葉を換えれば、次の3つの能力を持つ人材です。第1は、職業人としての高度な能力を持つ「プロフェッショナル人材」、第2は、人間力によって人や組織を結びつける「ネットワーク人材」、第3は、人々が共に歩もうと思う志や使命感を持つ「リーダーシップ人材」です。今年のBCUに参加された皆さんが、BCU卒業後も、実社会においてこの3つの能力を磨き続けていくことを決意してくれたならば、BCUの目的は達しています。皆さんの活躍を心より祈っています。



多摩大学大学院名誉教授

田坂 広志



MN & Associates代表

中島 正樹

例年よりも参加人数を大幅に絞り込んだ今回は、講師がそれぞれのチームに関われる時間が格段に増え、議論の熱も、提案をまとめ上げる産みの苦しきもダイレクトに共有することになりました。集中討議前の3日間のフィールドワークで体感した今治の現実と、それに対して「自分たちは何をすべきか」を深く考えた素晴らしい提案が生まれたと感じました。学生の皆さんが、今回の1週間を通じて感じた様々な「違和感」を大切にすること、そして変革のためにまず「自分を変える勇気を持つ」ことを、今後、社会をより良い方向に変えていくための原動力にして欲しいと願います。

BCUが終わった後の9月15日、アドバイザーボードメンバーで今回も講師として参加された鈴木エドワードさんが他界されました。エドワードさんの遺志を継ぎ、BCUが変革を志す若者たちの「起点」となり続けるよう、私も引き続きBCUを応援します。

本年度は、企画から運営までをOB/OGで行うという全てが新たなチャレンジでした。参加者としての関わりと、運営側としての関わりでは、見えるものも負担も全く異なることを体験される良い機会になったのではないかと思います。また、BCUの内容においても、これまでにない様々な気づきや課題が見える貴重な機会となりました。特に今回は日本語学校に通う外国人の方も参加して下さったことや、大人たちがあまり関わってこなかった地域に積極的に入っていくなど、互いの考え方や価値観の違いを感じ、ダイバーシティが持つ力を実感された方も多いのではないのでしょうか。デジタル時代に入り、それぞれに入ってくる情報が益々パーソナライズされる今こそ、リアルに異なる価値観の人たちと真剣に議論し合うことは、人間にとって生きやすい社会を創造する担い手になる若い方々にとって大きな糧になると思います。最後に、BCUの3週間後に急逝された、アドバイザーボードメンバーとして、常に大きくて深い愛で学生の皆さんを見つめ励まして下さった鈴木エドワードさんの冥福をお祈りします。



ミンコケイカクファインバンク代表

藤沢 久美



野島計画社 / ミネプランニング代表

古田 敦也

今回も様々なアイデアが出てとても楽しく拝見させていただきました。このBCUは日本が潜在的に抱えている少子高齢化や地方再生という問題に取り組んでいるまさに今治から発信していけるチャレンジだと思います。この活動が今治だけでなく全国に広まりもっと大きな力になって日本の未来が豊かなものになっていくことを期待しています。

「凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。優れた教師は自らやってみせる。しかし偉大な教師は心に火をつける。」(W.A.Ward, 1921-1994) みなさん一人ひとりが人の心に火を付けられるよう、BCUで灯した自分の心の火を大切にしてください。



早稲田大学スポーツ科学学術院教授  
博士(スポーツ科学)

間野 義之



株式会社日本総合研究所 主席研究員

藻谷 浩介

「BCUを卒業生が主体となって運営する」と聞き、「本当にできるのか？」と疑問を持ちました。しかるに彼らはやり遂げました。何よりもそのことに、深い敬意を表します。自分が参加者側であった時以上に、激しい苦労と、深い学びがあったことと思います。フィールドワークを増やし、多様な参加者を受入れたことも、今回の進歩でした。本当にお疲れさまでした。

今回のBCUはプログラムを一週間に延ばし、今治の地域のみならずとふれあい、共に考え、行動していく時間をしっかりとる形にトライしました。それが功を奏した形で全国から集った学生たちが地元の方さながらに強い思いをもって地域の課題を語る姿に感動しましたし、実際に提起してくれたテーマは地域の課題を鋭く捉えたものでしたし、さっそく行動を起こし始めた学生もいます。私はそこに、真にアクションや未来に繋がる地方創生のあり方、また次代が必要としている大学の未来の形を見た気がしました。私としてもこの場をぜひ今治のみならずと更に育んでいきたいと改めて思いましたし、地方創生の政策や高等教育の改革にも反映させていきたいと思いました。何より、参加してくれた学生のみならずからかけがえのない1週間を過ごした成長のあとがうかがえたことが嬉しかったです。ぜひこれからも果敢なチャレンジをお待ちしています。



NPO法人AETIC 代表理事

宮城 治男



## Bari Challenge University 2.0 濃密な体験を作り出すチャレンジは次のフェーズへ

今治の地を学びの場に、全国から若者が集うインキュベーションプログラム、Bari Challenge University(BCU)が2019年8月19日から25日の期間で開催された。今年で4回目となるBCUは、過去にBCU参加した約270名の卒業生である、OB・OGの中から有志が企画・運営を行う組織を立ち上げた。

OB・OGが企画することにより、参加者視点でBCUを再構築することに。そこで決まった大きな変更点は3つ、  
①期間を3日間から7日間に延長

②1チーム15万円の活動資金を渡す  
③参加人数を絞り5チーム25名に  
というものであった。

今回のBCUは、期間を7日間と大幅に増やしたことにより、例年だと300名ほどの応募があったのだが、今年は200名ほどに減少した。大学生にとっては、夏休みのこの時期にインターンに時間を割き、就活を有利にしたい時期であろう。社会人となると、1週間の休暇をまとめて取れるかと言うとそれはハードルとしては高いだろう。1年

365日、約52週。その中の1週間、1年の2%をBCUに捧げる覚悟がある人たちが応募してきたのだ。運営側の熱量の高い参加者を求めたい。その想いに共感した人たちから7倍の倍率をくぐり抜け23名(2名は直前に辞退)の若者が今治に集い、BCUは開幕した。

初日は今治港のみなと交流センター「はーぱりー」で入学式を行い、全員参加で、BIOTOPE代表・佐宗邦威氏による、直感と理論をつなぐ思考法、「デザイン思考」を用いたアトリエワーク



ショップが開催された。

今回のBCUでは、今治市の地域課題を解決、地域の活性化に結びつくアイデアを出すことがテーマとなっている。いきなり見知らぬ土地で、初対面のメンバーと短期間にアイデアを出しきる。そのために必要な、自分たちが描くビジョンをどうやって可視化させるのか？ このワークショップを通じて、参

加者同士が思う未来の街の姿、考え方の軸がひとつ通った様に見えた。

2日目から4日目は、今治市内でのフィールドワークを実施。現状の把握や住人たちの生の声を通じて感じる課題を実際に体験。商店街でフリードリンクを振る舞いながら、市民と交流する者、漁師町へ赴き漁船にも乗り漁師の可能性を見出すチーム、地元企業へ訪問し、

12 初日はアイスブレイクから。23人というスケールで開催することにより、参加者全員が顔の見える関係に。岡田学長も積極的に参加者とコミュニケーションを取る。地元のテレビ局(あいテレビ、テレビ愛媛)も密着取材のカメラを入れる。2局同時に取材が行われたのはBCU史上初  
3 BIOTOPE代表・佐宗邦威氏。著書に『直感と理論をつなぐ思考法 VISION DRIVEN』など。アトリエワークショップの講師としてその思考法を参加者に伝授  
45 アトリエワークショップを実際に体験。互いの似顔絵を手元を見ずに描き右脳を刺激させる。初対面の参加者同士の距離をグッと縮められるエクササイズだ

### BCU2019参加者



Aチーム・せんざんき

櫻井 裕士・寺嶋 杏祐・大村 拓輝・矢野 いずみ  
高橋 舞



Bチーム・焼豚玉子飯の歓喜

板谷 寛希・松井 春樹・平野 雄己・前田 寛成



Cチーム・Cの3乗

谷間 大祐・白方 大海・奥村 昭仁・鈴木 峻平



Dチーム・No.5

チェン ヤンル・金子 竣亮・佐藤 祐太・板谷 隼  
藤田 瑞生



Eチーム・Global Village

新居 理沙子・Pratama Muhammad Ilham  
Udattawa Hiti Bandaralage Gihan Sanka-  
Neranjana Bandara  
Imam Ibrahim Dimas・Andhika Pratama Fandi

### 開催概要

主催/株式会社今治、夢スポーツ  
運営/OB・OG チーム  
日程/2019年8月19日(月)~25日(日)  
場所/愛媛県今治市  
参加人数/BCU受講生23名  
社会人6名/大学院生1名  
大学生11名/専門学生4名  
高校生1名

参加費/無料



1 2 シャッター商店街となったアーケードでフィールドワークを行うDチーム 3 漁師町に訪れ、唯一の若手漁師とともに漁を体験するAチーム 4 7 フィールドワークで市内を駆け巡ったEチーム。この後地元高校生との出会いが、課題解決の大きなヒントとなった。発表後、アドボの岡野氏より、実際に早稲田大学のゼミ合宿でこのプランをEチームで実施してみないか?との提案がなされた 5 6 Aチームは漁師町に食堂を作り新たなコミュニティを創出するアイデアを、実際に1日限定の食堂を地元の方と運営して、その手応えを感じた 8 Cチームは大三島の景観の良さ、元々あった段々畑を活用しゲストハウスを作るという案に 9 コミュニティカフェで多数のチームが会議を開く 10 Bチームは技能実習生にヒアリング。地域との接点が少ない技能実習生と地域社会との共生を模索 11 12 最終発表会の模様 13 閉会后、希望者向けにFC今治の公式戦パブリックビューイング会場にて試合の観戦を行った



## 若者が実際に見て感じ取った今治の課題と解決策

外国人技能実習生から見える地域との問題に切り込むチーム、大三島で過疎地、農家などへ現状について聞きに行くチーム。様々なアプローチで、各チームは今治の街を知り、課題を掘り下げていった。

5日目には、FC今治アドバイザーボード(アドボ)が登場。アドボたちもBCUに対し、多様性を持たせるために外国人の参加者を入れたほうがいいとそのコーディネートを行った。その他に

も今回は各チームに対して、専属のような形でアドバイスをしたりと、BCUへのサポートを惜まない姿を見せた。6日目の中間発表では、忌憚のないかつ厳しいアドバイスを参加者に浴びせる。発表後に参加者は残り時間という制限と戦うこととなる。

そして迎えた最終日。この6日間、初対面の人でチームを組み寝食を共にした。今回その濃密な時間故に、チームが分裂するという事件も起きた。それほ

ど真剣に参加者はぶつかりあった。

最終発表では、各チーム以下のテーマで発表を行った。

▼せんざんき(Aチーム)

「おなかむねいっぱい食堂」

▼焼豚玉子飯の歓喜(Bチーム)

「共生」

▼Cの3乗(Cグループ)

「段々畑の復活×大三島」

▼No.5(Dチーム)

「全長1.1kmの商店街に天然芝を」

▼Global Village(Eチーム)

「Let's respect the differences」

学長賞は、Global Villageチームの提案。今治の高校生と日本語学校に通う外国人とでBCUのようなワークショップを開催する案。アイデアはどのチームよりも細かくすぐにも実現できる内容が高く評価された。

当初、学長賞のみ賞は設定されていたが、審査中にアドボの中から気になったチームのアイデアに、個人的にでき

るサポートを行うと声が挙がった。中でもCチームの大三島の景観を生かしたゲストハウスを作る案に関しては、青野氏より1年間の活動資金を提供するので、具体的なプランを作って欲しいと告げられた。その他のチームにもアドボからアイデアを実現させるための支援や著書などの副賞が贈呈された。

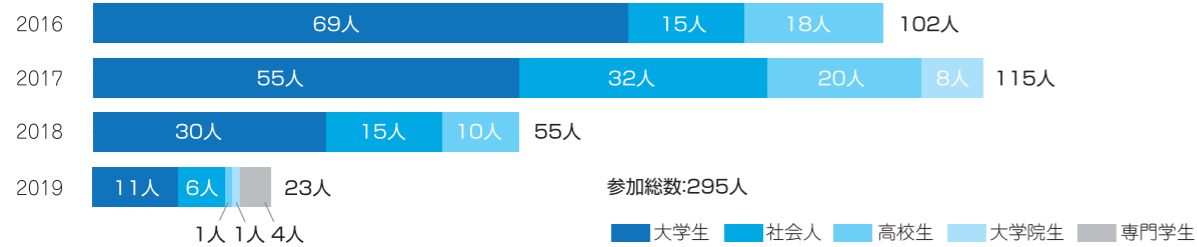
今回のBCUは、7日間開催など大きな改革が行われた。これらの改革は、地域の人も多く関わり合いを持ち、実

際に最終発表の時には、BCU参加者と関わった市民が多数訪れた。これから10年20年とBCUの活動を続けていけば、その中から社会を変えて行ける人が、今治という街を通じて出現する。

若者が本気でチャレンジを行い、それをOB・OGが行う運営、アドボ、今治市民が後押しし、形となる。BCUは回を重ねることに前進をし、これからも続けていく意義が大いにあるプログラムであることが見えた7日間であった。

## DATA BOOK

### 参加者情報



### 所属名

今治東中等教育学校／今治西高等学校／今治南高等学校／今治北高等学校／今治北高等学校大三島分校／今治精華高等学校／今治明德高等学校／今治明德高等学校矢田分校／伯方高等学校／愛媛大学／松山大学／今治明德短期大学／香川大学／高知大学／徳島大学／Boston-University Questrom School of Business／HECParis経営大学院／Temple University Japan Campus／愛知学院大学／一橋大学／宇都宮大学／横浜国立大学／岡山大学／尾道市立大学／関西学院大学／岐阜大学／宮崎大学／京都外国語大学／京都産業大学／京都大学／京都府立医科大学／金沢星稜大学／金沢大学／九州大学／熊本大学／慶應義塾大学／広島大学／広島大学大学院／国際基督教大学／佐賀大学／阪南大学／埼玉大学／鹿児島大学／首都大学東京／女子栄養大学／上智大学／新潟大学／青山学院大学／千葉大学／早稲田大学／多摩美術大学／大阪体育大学／大阪大学／大阪大学大学院／筑波大学／筑波大学大学院／中央大学／長崎大学／帝京大学／島根大学／東京外国語大学／東京学芸大学／東京国際大学／東京大学／東京大学大学院／東北大学／東北大学大学院／同志社大学／日本大学／福山大学／福島県立医科大学／福島大学／法政大学／北海道大学／明治大学／立教大学／立命館アジア太平洋大学／立命館大学／立命館大学大学院／琉球大学／獨協大学／弥勒の里国際文化学院日本語学校／AmoRide／Ascenders／CCCマーケティング／CRAZY／Donuts／Google／IKEUCHI ORGANIC／PR-TIMES／scoville／Sil's Vous Plate 洋菓子店／U-NEXT／UZUZ／アクセンチュア／アリスタ・木曾／今治造船／いぎぎん地域経済研究センター／インクルージョン・ジャパン／エス・ピー・シー／愛媛新聞社／オリンパス／シグマックス／しまなみ／ジャパン・ベアスポール・マーケティング／ジョンソン・エンド・ジョンソン／セールスフォース・ドットコム／ディリー・インフォメーション／デロイト・マツコンサルティング／ドーム／ナイキジャパン／ネットプロテクションズ／ポストンコンサルティング・グループ／ホットスタートアップ／ユニクロ／リクルートライフスタイル／ロコフル／ワークスアプリケーションズ／ワンディエゴ丸出版／伊予銀行／一般社団法人南三陸町観光協会／渦潮電機／荏原製作所／越智今治農業協同組合／学習塾affetti／群馬県南牧村役場地域おこし協力隊／月形町役場／兼松／今治冠婚葬祭互助会／今仙電機製作所／三菱商事／四国浴材／資生堂／鹿児島県長島町地域おこし協力隊／浅川造船／第一印刷／田中産業／電通／渡辺パイル織物／東京海上日動火災保険／内閣官房／日本たばこ産業／日本政策投資銀行／日本青年会議所／名古屋わかもの会議

### 参加者の声 BCU終了後の参加者アンケートより

◆日本を良くして行くためには都心部のみならず、地方創生の必要性を強く実感した。地方を強くできる仕組み作りに貢献できる人材になりたいと感じました。(2017年参加者)

◆若者と日本の最前線で活躍している有識者が集まる場のエネルギーはとても素敵だと感じた。ワークショップは今まで様々なイベントに参加してきたが、もっとも苦しく合意形成に時間がかかった。それだけ個性ある参加者が集まっていたし、本気だったと思う。(2017年参加者)

◆アドバイザーボードの鈴木寛さんが、クリエイティブティヤーやグローバル化、などといった語に対して「流行りの言葉でごまかすな」と仰っていたのがとても心に残っています。(2017年参加者)

◆夢ややりたい事に対して、現実的な部分で「これはできない」と自分で限界を決めてしまっている事が多くなっていました。しかし、今回のBCUで夢を描くこと、語ることがこんなにも楽しく、ワクワクするものだという事に改めて気付くことができました。(2018年参加者)

◆もっと自分がやりたいこと、夢を自由に描いていい。例えそれが実現可能性が低くても。大事なものは、それを語ることで、そして、一歩踏み出すこと。その大切さを学んだ。(2018年参加者)

◆岡田さんは「本気を舐めるなよ」とおっしゃっていたが、本当にその通りだと感じた。本気になって必死に何かに取り組むにはすごくエネルギーが必要だとつくづく感じた。(2018年参加者)

◆1週間生活を共にする中で、チームというプロジェクトの取り組み方の素晴らしさを知ることができました。4人で考え、自分一人の考え方で突き進まず、意見を練り合わせながら、プロジェクトの成果を出せたことは、大きな達成感につながりました。(2019年参加者)

◆特に学べたことは、本音で話すことの大切さと難しさです。メンバーとは、プレゼン前日の夜、本音で話して分かりあえました。BCUが3日間だったらこんなに分り合えなかったと思います。また、自分が動けば今治の人を動かせるかと確信しました。(2019年参加者)

◆志と使命感を持って生きていきたいって強く思った！ 人間的な未熟さを感じた。7日間もあると、自他含めて弱さ・ボロが出てくる。それが最大の収穫だった。めちゃくちゃ価値観が大きく変わりました。(2019年参加者)

◆チームワークを発揮するために「事実」と「解釈」を分けて考えながら、チームメンバーの「感情」に寄り添うことが重要だと学びました。大三島でのゲストハウス事業を成功させます！ 自分の心を打ち明けられない内に相手の心を開こうとしても意味がないことを学びました。いろんな繋がりや学びが多くてすごくためになりました。(2019年参加者)

### メディア掲載情報

年	メディア	掲載内容
2016年	5月25日 愛媛朝日テレビ	岡田オーナー発案の地域活性化プロジェクト
8月27日	あいテレビ	愛媛のニュース「バリチャレンジユニバーシティ2016」
8月30日	今治CATV	ickニュース
9月15日	BS11	報道ライブIN side OUT 「岡田武史 今治から起こす日本サッカー革命」
9月18日	テレビ愛媛	「チャレンジ!FC今治岡田武史×若者×未来」
10月15日	今治CATV	BARI CHALLENGE UNIVERSITY バリチャレンジユニバーシティ2016
2017年	8月16日	テレビ愛媛 みんなのニュースえひめ
2018年	5月7日	テレビ愛媛 みんなのニュースえひめ
5月9日	今治CATV	ickニュース
8月18日	NHKニュース	おはよう日本
8月20日	今治CATV	ickニュース
2019年	9月5日	テレビ愛媛 EBC Live News 岡田オーナー若者に「一歩を踏み出せ」
9月26日	あいテレビ	Nスタえひめ 今治ににぎわいを! 若者たちの奮闘
2016年	5月26日	愛媛新聞 「岡ちゃん今治活性化」実行委員会設立のまよう
6月29日	日本経済新聞	今治からチャレンジする若者育てたい
8月25日	愛媛新聞	FC今治岡田氏と地方創生を語ろう
9月4日	愛媛新聞	複合スタジアム無限の可能性 今治バリチャレンジ詳細
2017年	5月10日	愛媛新聞 岡田氏と探る今治活性化、バリチャレ8月開催
5月25日	愛媛新聞	海事産業の今に触れて-今治バリシップきょう開幕-
5月28日	愛媛新聞	海事産業感動満載-今治「バリシップ」開幕-
5月30日	日本経済新聞	地方経済欄
8月12日	愛媛新聞	瀬戸内のあす若者が描く-今治で「バリチャレ」始まる-
8月13日	愛媛新聞	多様な人々 共存社会は -今治「バリチャレ」若者アイデア提案-
8月14日	愛媛新聞	瀬戸内振興 熱く発表-「バリチャレ」若者ら120人-
8月16日	テレビ愛媛	みんなのニュースえひめ
8月25日	愛媛新聞	今治活性化へ若者激論(1面)
8月25日	愛媛新聞	今治「バリチャレ」120人が瀬戸内振興議論 -悩み抜いた先の達成感-(4面)
2018年	5月8日	愛媛新聞 8月17~19日にバリチャレ開催
8月18日	愛媛新聞	「若者よリスクを取れ」今治でサバイバルWS始まる
8月20日	愛媛新聞	今治活性化懸念案披露 「バリチャレ」若者50人が最終発表
2019年	8月19日	愛媛新聞 今治の課題解決に若者挑む「バリチャレ」開幕
8月20日	愛媛新聞	挑め今治の課題解決 バリチャレ開幕 若者23人が汗
8月26日	愛媛新聞	バリチャレ最終発表会 今治活性化、若者が提言
10月23日	信濃毎日新聞	地域づくりの人材育成 若者よ、街の未来像描け

6月29日	日本経済新聞	守・破・離への道(岡田武史) 「今治からチャレンジする若者育てたい」
8月27日	愛媛新聞ONLINE	愛媛のニュース「バリチャレンジユニバーシティ2016」
9月15日	サイボウズ式	「おかしいこととおかしい」と組織で言うには 1人で食べるだけの自立が絶対に必要-岡田武史×青野慶久
9月21日	Sportsnavi	「スポーツによる地域創生」とは何か? 今治アドバイザーボードが語る最新事情
2017年	9月1日	デロイト・マツコンサルティング 【連載コラム】FC今治~地方創生Next~ 第2回「Bari Challenge University」
2019年	5月14日	PR Times FC今治が地域課題解決型ワークショッププログラム「Bari Challenge University」を開催!
10月28日	SankeiBiz	【ワークスタイル最前線】愛媛で地域活性化プラン競い合う
11月29日~	ダイヤモンドオンライン	BCU 2019特別レポート (1)~(4)

### BCU2019協賛企業

#### TOP PARTNER



#### OFFICIAL PARTNER

熱・水・環境のベストパートナー

